



バッハの森通信

第125号
2014年
10月20日発行

一般財団法人バッハの森

〒300-2635 茨城県つくば市東光台2-7-9 <http://www.bach.or.jp>

☎ 029-847-8696 / Fax 029-847-8699 e-mail : info@bach.or.jp

郵便振替 00380-4-16119 一般財団法人バッハの森

バッハの森のクリスマス 未来の希望を託す「お誕生日会」

29年前、1985年1月13日に「バッハの森開館記念の集い」を開いて、バッハの森は公式に始まりました。当然その前の1ヶ月、1984年の年末は、新築完工した奏楽堂に楽器などを運び込み、パイプ椅子を初めとする諸々の備品を揃え、各方面に開館記念日のお知らせをしたりして、開館の準備に大わらわでしたが、その最中、12月25日7時から「クリスマスの夕べ」を開きました。

残っているたった1枚のプログラムは、「クリスマスの夕べ」が、ポジティブ・オルガンの奏楽に続き、8曲のコラールとノエルとキャロルを降誕物語の朗読と交互に歌うだけの大変簡素なクリスマスだったことを伝えています。

同時に、このプログラムを見て、当時の様子が思い出されました。それは、どんなに忙しくても、たとえツリーがなくても、クリスマスだけはしようよ、という声が準備作業を一緒にしていた皆さんの間で起こり、このささやかな「クリスマスの夕べ」になったことです。今となっては、実際にどんなクリスマスだったか、余りはっきり思い出せないのですが、いよいよ始まるバッハの森の創立に希望を膨らませ、静かな感動と喜びに満ち溢れたクリスマスだったはずです。

* * *

クリスマスは、今や日本の国民的祝日ですが、本来、イエス・キリストの誕生を祝う教会の祭日です。クリスマスをラテン語で「ナティヴィターティス・ドミニ」（主の誕生）、イタリア語で「ナターレ」（誕生日）と呼びます。要するにクリスマスは「お誕生日会」なのです。

どの家庭でも、子どもたちのお誕生日会をにぎやかに祝いすると思います。それが、新しく生まれた赤ちゃん誕生のお祝いなら、なおさらでしょう。赤ちゃんや子どもは、私たちが未来の希望を託す新しい命だからです。クリスマスも同じことです。キリスト教徒が、イエス・キリストの誕生に未来の希望を託して祝ってきたお祭りなのです。

バッハの森は、1985年1月13日に開館したので、創立以来数年間、1月10日前後の日曜日に創立記念日、すなわち「お誕生日会」を開いてきました。しかし、クリスマス直後では合唱の練習が間に合わないというので、先ず新年度の始まりという理由で、4月初めに創立記念日を変更しました。すると今度は、新学年の始まりと重なって忙しいから困る、という苦情が寄せられました。結局、1990年にバッハの森の創立記念日は3月21日に決まり、それを今日まで守っています。これは春分の日の日曜日ですが、それよりJ.S.バッハの誕生日にあやかったのです。

このように創立記念日の日付を転々と移したことは、いささかご都合主義のそしりを免れません。本来、創立の精神を思い出し、創立の精神を発展していく決意を新たにすることが創立記念行事の意味ですから、バッハの誕生日は、バッハの音楽を中心テーマにするバッハの森の創立記念日にふさわしいのではないのでしょうか。そもそもクリスマスの日付、12月25日は、本来、ローマ人の冬至祭でした。この一年で一番暗い日を、古代教会が、新しい光の始まりとして、イエス・キリスト降誕の日に定めたのです。

* * *

今回、30年前、開館直前に「クリスマスの夕べ」をお祝いしたことを思い出し、バッハの森の本当の創立記念日はクリスマスなんだと思いました。創立記念日をまた動かそうと考えたわけではありません。バッハの森の精神的ルーツはクリスマスだと、改めて思ったということです。

いずれにしても「クリスマスの夕べ」から数えると今年で30回目になる「バッハの森のクリスマス」を、盛大にお祝いする計画をたてました。11月23日の「オルガン・コンサート」に始まり、11月30日の「バロック・アンサンブル」、12月7日の「CDで楽しむメサイア」、12月14日の「クリスマス・コンサート」、そして12月20日の「家族で楽しむクリスマスの音楽会」まで、毎週末、5週連続でクリスマスをテーマにいろいろなコンサートを開きます。

未来の希望を探し求めて開く「バッハの森のクリスマス」を、ご一緒に楽しみませんか。多くの皆様のご参加をお待ちしております。（石田友雄）

家族で楽しむ音楽ワークショップ 本当にみんなで楽しみました

去る8月24日(日)に、午前中は「家族で楽しむ音楽ワークショップ」、午後は「家族で楽しむ夏休みの音楽会」を開きました。去年、「夏休みの音楽会」を開いてから、クリスマス、春休みと「家族で楽しむ音楽会」シリーズを続けてきましたが、この間に、子どもたちと本当に音楽を楽しむためには、練習から一緒にするのがいいのではないかと、という声が聞こえてきました。そこで、今回、「音楽会」の前に、初めて「ワークショップ」を開いてみました。

初めてのことで、参加者がいるかどうか、子どもたちが飽きてしまったらどうしようかなど、心配なことばかりでしたが、いざ開いてみると、それは杞憂でした。大人も子どもも、参加した方々は皆、大変楽しんでくださいました。もちろん、講師の皆さんもとても楽しかったそうです。

子どもと大人の輪唱と合唱

参加者の内訳は、子どもが4人(小学1年生、3年生、4年生、6年生1人ずつ)、大人が3人(父親2人、母親1人)、それに講師が3人とアシスタントが1人、計11人でした。午前10時に受付登録をしてから先ずフランス民謡「フレール・ジャック」をみんなで斉唱し、それから輪唱しました。

後で、ピアノをととても良く弾けることが分かった子が、歌は余り歌ったことがないようで、楽譜は読めるのに歌うことに抵抗を感じているようでしたが、岩渕倫子さんの巧みな指導で、すぐ皆にとけ込んできました。楽器と歌を同時に習うことの楽しさと大切さが、分かってもらえたでしょうか。

1年生の子は難しかったのでしょうか。最初、そっぽを向いていましたが、別所香苗さんがあやすように一緒に歌ってあげているうちに機嫌を直して、終わりにはみんなの歌の中に入ってきてくれました。

次に「みどり深き、かなたの谷」(石田友雄訳)という邦訳歌詞でウェールズ民謡「アッシュグローヴ」を歌いましたが、まず歌詞の文語文が難しいうえ、楽しい出会いの直後に起こる別れの悲しみという内容の理解も、子どもたちには一寸難しかったようです。それに結構長い歌なので、このような歌を教えるためには、もっと時間が必要でした。それでも、

弾む3拍子なのに哀愁を感じさせるメロディーの美しさは、ちゃんと分かってくれたようです。大人が一部のハーモニーを付けると、美しい合唱になりました。

最後にラテン語のカノン、「ドナ・ノービス・パチエム」(私たちに平和を与えてください)を歌いました。今の子どもたちはローマ字に慣れているので発音はそれほど難しくありませんでしたが、3声カノンを響かせるのには大人の応援が必要でした。

ハンドベルとチェンバロの見事な演奏

休憩の後、別所さんの指導でハンドベルを練習しました。すでにハンドベルをしたことがある子もいましたが、子どもたちはみんなすぐ楽器に興味を示しました。1つの音を出す1つのベルを両手に持ち、自分の番が来たときにその音のベルをちゃんと振るために、いつも音楽の流れに乗っていなければならない緊張感と、全員が心を合わせて初めて出来たときの合奏の面白さをすぐ分かってくれたようです。1年生の子は、ベルを置く台の上によく頭が出る背丈で、一番小さなベルでも2つ持つのは大変なので1つだけ持って参加してもらいましたが、それでも、沢山練習した後で、ちゃんと自分の番にベルを鳴らせるようになりました。

ベルの音を出す練習を一通りしてから、休憩前に歌った「フレール・ジャック」のメロディーを練習しました。大人たちが大きなベルで低音をつけると、ハーモニーがある楽しい音楽になりました。ただ、1つのベルを鳴らした後でその音を消すテクニックを身につけるためには、もう少し時間が必要でした。

お昼前最後の30分は、チェンバロの時間でした。子どもも大人もピアノを習っていたり、習ったことがある人たちなので、鴨川華子さんが、楽器を開け



てピアノとの違いを丁寧に分かり易く説明すると、熱心に聞いていました。それから、皆さんに弾いてもらいましたが、特に4年生の子はW. F. バッハの「春」、3年生の子はN. ブルクミュラーの「乗馬」をすらすらと見事に演奏しました。更に、お父さんとお母さんも弾いてくださったので、本当に家族で楽しむワークショップになりました。

大成功、でもどうすれば続けられるか

お昼のお弁当とお休みの後で、午後1時から「夏休みの音楽会」の総練習をしました。音楽会で一緒に演奏するバッハの森のメンバーも参加して、全体を通すりハーサルをした後で、2時から1時間の音楽会を開きました。そこで午前中に練習した音楽を、練習したとおり、大人と子どもが一緒になって演奏しましたが、皆、練習したときよりもっといい演奏をしたので、音楽会に集まってくださった皆さんから、大きな拍手をいただきました。

ワークショップと音楽会を開いてみて、何よりも驚いたことは、良い指導と相まって、子どもたちの上達の速さでした。朝、ワークショップを始めたとき

には、果たして午後の音楽会でちゃんと演奏できるかどうか心配なほど、音楽になっていませんでしたが、あの短い練習だけで、見事に演奏できるようになったのです。

このように、初めてのワークショップは大成功でした。少々盛り沢山だったようですが、そのせいか誰も途中で飽きなかったようです。「アッシュグロヴ」のような、いささか難しい歌を取り上げたことも、マイナスではなかったと思います。意味がよく分からなかった子どもたちも、メロディーの美しさを感じることはできましたし、大人になって意味が分かったときに、きっと感激するのではないのでしょうか。

独特の雰囲気と美しい響きを持つバッハの森記念演奏堂で、他ではあまり聴かれない心に響く音楽を、家族と一緒に演奏して楽しむワークショップが、これから育っていく子どもたちの大切な心の糧になることは間違いありません。問題は、このようなワークショップを1年に1度開いていたのでは、余りにも効果が薄いことです。どうしたらいいのでしょうか。これは、私たち、バッハの森に集まるみんなに与えられた宿題です。(石田友雄)

OBITUARY / オビチュアリー / 訃報

終わりまで

バッハの森に寄せられた想い

バッハの森の二人の会員が亡くなりました。6月16日に加藤羊子さんが83歳で、9月1日に竹内博子さんが84歳で永眠なさいました。二人とも、29年前の創立時からバッハの森に参加し、バッハの森を応援してきてくださった方々です。

この二人は、7年間のアメリカ留学を終えて1957年に帰国した木村一子（後の石田一子）と、彼女がその翌年から始めたキリスト教音楽講習会のオルガン講座で出会った方々です。二人とも、オルガニストとして教会で奉仕されながら、50数年前に起こった“出会い”の喜びを、一子が亡くなってから6年近く経つ今年まで守ってこられたのです。

加藤さんは東京の杉並、竹内さんは逗子にお住まいでしたが、10年ほど前までは、バッハの森のワークショップやコンサートによく参加なさいました。最近、やや身体がご不自由になられたため、直接

参加なさることはありませんでしたが、遠くから想いを寄せていてくださっていました。それは、加藤さんが、バッハの森に集まる皆様のためにと、毎年何回もジュースなどを送り続けてくださったことから分かります。

昨年の秋、竹内さんが、久しぶりに電話をくださいました。そして突然、「私、ガンになりました。それも末期です」と元気な声で言われるのにびっくりしました。いささかたじろいで、「お元気そうですね…」と返すと、「でも本当なんです。近く入院します。その前に自分で歩ける間に郵便局に行って、バッハの森のオルガン修復のための募金に送金させていただきます」とおっしゃいました。事実、その後、彼女から多額のご寄付の送金がありました。

終わりまでバッハの森を想い、応援し続けてくださったお二人に改めて深く感謝いたします。またお二人のご冥福を祈るとともに、ご親族が慰められることを心から願っております。(石田友雄)

日誌 (2014. 7. 14 - 10. 12)

- 7.3 固定資産調査 つくば市固定資産税課 2名。
7.3, 10, 17, 24, 31 運営委員会 参加者4,3,4,4,3名。
7.5 夏休みの音楽会・打ち合わせ 参加者5名。
7.13 チェンバロ調律講習会 参加者6名。
7.14 放送 午前5時55分～6時(Eテレ)、午前11時55分～12時(BSプレミアム)で、NHK・TVより、昨年12月14日、15日、21日の取材に基づくバッハの森の紹介が放送された。
7.26 来訪 スティーヴン・ディーク氏(米国・C.B.フィスク・オルガン建造・社長)。
7.26～27 特別オルガン教室(フェリス女学院大学宮本とも子研究室)参加者3名、1名。
8.4 来訪 豊田裕子氏(ピアニスト)。
8.7 来訪 石丸由佳氏(オルガニスト)。
特別オルガン教室(フェリス女学院大学宮本とも子研究室)参加者2名。
8.10 特別練習・ハンドベル 参加者4名。
8.14 来訪 梅岡俊彦氏(梅岡楽器サービス・代表)。
8.17 夏休みの音楽会・特別練習 参加者9名。
8.21 運営委員会 参加者3名。
8.24 家族で楽しむ音楽ワークショップ 参加者11名(大人7名、子ども4名)。
家族で楽しむ夏休みの音楽会 参加者28名(大人21名、子ども4名、幼児3名)。
9.13 秋のシーズン開始
9.13～15 教会音楽ワークショップ 参加者10名、14名、10名。
9.11, 18, 25 運営委員会 参加者各4名。
10.2, 9 運営委員会 参加者各4名。
10.10～11 来訪 鈴木由帆氏(オルガニスト)。

J.S. バッハの音楽鑑賞シリーズ

コラール・カンタータ研究

コラールとカンタータ(JSB)

- 9.20 三位一体後第5主日のカンタータ「愛する神にのみ支配させる者は」(BWV 93);コラール「愛する神にのみ」。オルガン:J.S. バッハ「歌え、祈れ、そして神の道に歩め」(BWV 93/7)、海東俊恵。参加者9名。
9.27 第375回、オルガン:J.S. バッハ「愛する神にのみ支配させる者は」(BWV 647)、海東俊恵。参加者8名。
10.4 三位一体後第11主日のカンタータ「主イエス・キリストよ、あなた、いと高き宝」(BWV 113);コラール「主イエス・キリストよ」。オルガン:J.S. バッハ「あなたの喜びの霊で私を強め」(BWV 113/8)、金谷尚美。参加者12名。
10.11 第376回、オルガン:D. ブクステフーデ「主イエス・

キリストよ、われよく知る」(BuxWV 193)、金谷尚美。参加者11名。

学習コース

- バッハの森・クワイア(混声合唱) 9.20/9名、9.27/10名、10.4/10名、10.11/12名。
バッハの森・バロック・アンサンブル 9.20/2名、10.4/4名。
バッハの森・ハンドベル・クワイア 9.27/2名、10.4/2名。
通奏低音研究会 9.20/6名。
オルガン音楽研究会 9.19/7名、10.3/7名。
コラール研究会 9.19/6名、10.3/7名。
クラヴィコード・オルガン教室 9.19/4名、10.3/4名。
オルガン・クラブ 9.26/2名。
読書会:聖書 9.20/5名、9.27/6名、10.4/6名、10.11/9名。
オルガン、クラヴィコード、チェンバロ練習 7.15/2名、7.17/1名、7.18/2名、7.22/3名、7.23/1名、7.24/2名、7.25/1名、7.26/4名、7.27/2名、7.29/1名、7.31/2名、8.1/3名、8.5/3名、8.6/1名、8.7/3名、8.8/2名、8.19/2名、8.20/2名、8.21/1名、8.22/2名、8.23/1名、8.26/3名、8.27/1名、8.28/1名、8.29/1名、9.2/3名、9.3/1名、9.4/1名、9.5/1名、9.6/1名、9.9/1名、9.10/1名、9.11/2名、9.12/2名、9.13/1名、9.16/2名、9.17/2名、9.18/2名、9.19/1名、9.20/1名、9.23/1名、9.24/3名、9.25/2名、9.26/1名、9.27/2名、9.30/1名、10.1/1名、10.2/3名、10.4/2名、10.7/1名、10.8/1名、10.9/1名、10.10/2名、10.11/2名。

寄付者芳名(敬称略日付順)(2014.7.14～10.20)

下記の方々から計43,937円のご寄付をいただきました。比留間恵、募金箱。

建物維持積立寄付(2014.7.14～10.20)

下記の方々から計159,000円のご寄付をいただきました。小嶋しのぶ、秋葉啓子、相原暁子、賀来達三、伊藤香子、木田みな子、秋山信勝、安西文子、中村東子、松村治美、戸部将一・慶子、當眞潔・容子。

オルガン修復積立寄付(2014.7.14～10.20)

次の方々から計5,500円のご寄付をいただきました。三條美千代、松村治美、金谷尚美。